

7.11 景観

7.11.1 調査内容

景観の調査は、事業計画地周辺の主要な眺望点から事業実施後の埋立地をみた場合に眺望景観にどの程度の変化をもたらすかを予測するため、現地踏査による主要な眺望点の確認と写真撮影を実施した。景観調査の内容及び調査位置は、表 7-11.1、図 7-11.1 のとおりである。

表 7-11.1 景観調査の内容

内 容	方 法	地 点	実施頻度
主要な眺望点の確認 と眺望景観の状況	現地踏査及び 写真撮影	5 地点	No. 1 (阿武山山頂付近)
			No. 2 (鳥越峠付近)
			No. 3 (権現山山頂付近)
			No. 4, 5 (事業計画地西側のゴルフ場)
			2 回/年 冬季 平成 15 年 3 月 19 日 夏季 平成 15 年 8 月 29 日
			2 回/年 冬季 平成 15 年 2 月 26 日 夏季 平成 15 年 8 月 29 日

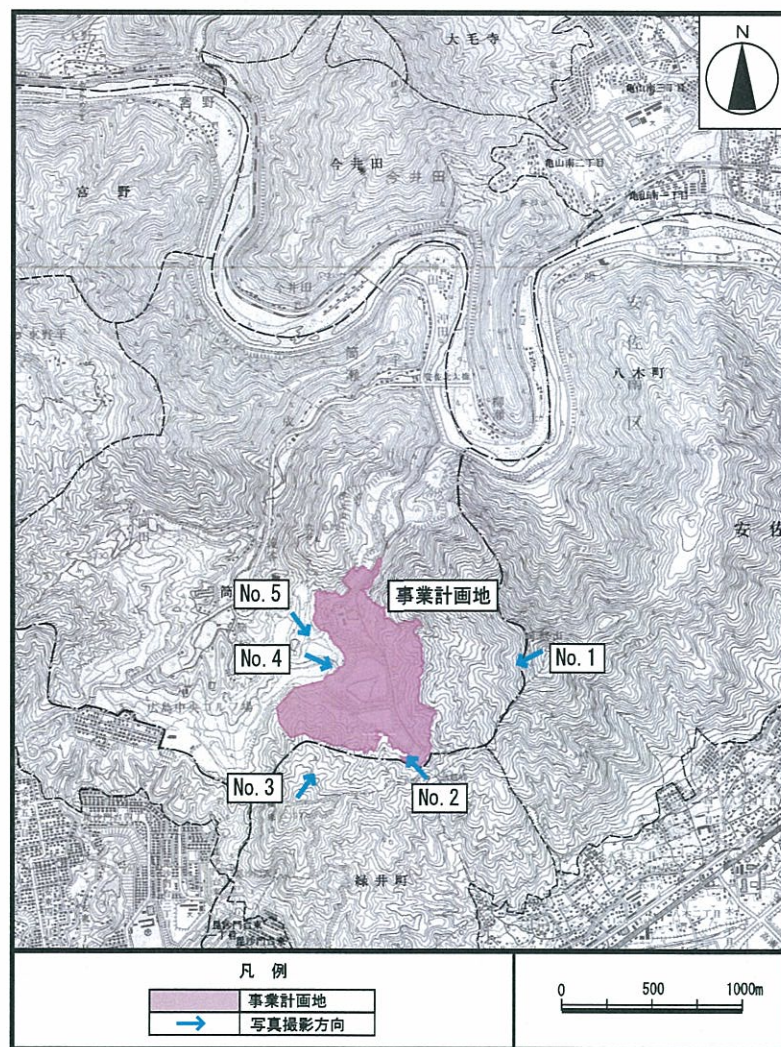


図 7-11.1 調査位置図

7.11.2 調査結果

主要な眺望点として人がよく訪れる眺望地などを現地踏査により確認した結果、「阿武山山頂付近」、「鳥越峠付近」、「権現山山頂付近」の3地点を選定した。また、補足的に、一般市民が訪れる場所ではないが事業計画地の西側に隣接するゴルフ場（2地点）を選定した。

景観調査結果は表7-11.2及び表7-11.3(1)～(5)のとおりで、各調査地点から撮影した写真を基に、全体の景観構成や事業計画地の視認性を整理した。

表7-11.2 景観調査結果（総括表）

視 点	位 置	眺望景観の状況	視認性	
			現 況	改変後
No. 1	阿武山 山頂付近	・埋立地方向の前面は樹木が茂っており、視界がふさがれた状態である。従って、埋立地を視認することはできない。	×	×
No. 2	鳥越峠 付近	・埋立地方向の樹木は密度が低く、樹間からは埋立地を視認することが十分可能である。	○	○
No. 3	権現山 山頂付近	・埋立地方向の前面には樹木が茂っているが、わずかな樹木の隙間から、埋立地の一部北側と碎石場を視認できる。しかし、その占有率は低く埋立地を探す意識がないと視認できない程度である。	△	△
No. 4	事業計画 地西側の ゴルフ場	・埋立地方向は樹木が茂っており、現状では樹木に遮られ埋立地を視認することはできない。 ・改変後は、土堰堤が嵩上げされることで、低木の隙間に埋立地の堰堤法面部が視認される可能性がある。	×	○
No. 5		・埋立地方向には樹木が茂っているが、低木の隙間から埋立地の堰堤法面部が視認できる。しかしながら、視野の多くがゴルフ場の人工的要素（植栽などによる緑の要素が主）で占められていることから、堰堤は法面緑化により景観要素に違和感なく溶け込んでいる。 ・改変後は、土堰堤が嵩上げされることで、さらに、埋立地の堰堤法面部が視認される割合が高くなる。	△	○

注）視認性：○＝視認できる。△＝ごく僅かに視認できる。×＝視認できない。

表 7-11.3 (1) 景観調査結果

視 点		No. 1 (阿武山山頂付近)
名称・所在地		広島市安佐北区八木町
利用の状態		利用者属性：阿武山への登山者 利用形態：散歩、健康維持、トレーニング、山登り
眺望対象		権現山、周囲の山
眺望方向・視野角		・ WSW の方向に主要な眺望対象となる権現山がある。 ・ 事業計画地は WSW-WNW 方向に位置するが、前面に樹木が茂り、視界がふさがれている。
視野構成		・ 視野の多くは雑木林、山の緑、霞の白等の自然的要素で占められている。
景観構成	近景	雑木林
	中景	権現山の尾根
	遠景	霞
視認性解析		・ 全体的には豊かな自然のイメージがある。埋立地方向は、前面に樹木が茂り、視界がふさがれた状態であることから、埋立地を視認することはできない。
備考		近景≦約 500m、約 500m<中景<約 3 km、遠景≧約 3 km

〔冬 季〕：平成 15 年 3 月 19 日



〔夏 季〕：平成 15 年 8 月 29 日



表 7-11.3 (2) 景観調査結果

視 点		No. 2 (鳥越峠付近)
名称・所在地		広島市安佐南区緑井
利用の状態		利用者属性：権現山～阿武山の遊歩道利用者 利用形態：散歩、健康維持、トレーニング、山登り
眺望対象		雑木林、押上山、権現山
眺望方向・視野角		・ NNW の方向に主要な眺望対象となる押上山があり、NW の方向には権現山がある。 ・ 事業計画地は WNW-NNW 方向に視認できる。
視野構成		・ 視野の多くは樹木などの自然的要素で占められ、樹間からは埋立地が視認できる。
景観構成	近景	雑木林、埋立地
	中景	押上山、権現山
	遠景	背後の空
視認性解析		・ 全体的に豊かな自然のイメージがある。阿武山方向の視界は樹木が茂り、ふさがれている。 ・ 雑木林の間から埋立地を確認することができるが、樹木が多く繁る夏季は視認しにくくなる。
備考		近景≦約 500m、約 500m<中景<約 3 km、遠景≧約 3 km

〔冬 季〕：平成 15 年 3 月 19 日



〔夏 季〕：平成 15 年 8 月 29 日



表 7-11.3 (3) 景観調査結果

視 点		No. 3 (権現山山頂付近)
名称・所在地		広島市安佐南区緑井町
利用の状態		利用者属性：権現山～阿武山の遊歩道利用者等 利用形態：散歩、健康維持、トレーニング、山登り
眺望対象		阿武山、阿武山周辺の稜線
眺望方向・視野角		・ENE の方向に主要な眺望対象となる阿武山がある。 ・事業計画地は NNE-ENE 方向にわずかに視認され、阿武山方向と重複する。
視野構成		・視野の多くは阿武山を含む山々等の自然的要素が大半を占めるが、埋立地の一部や採石場等の人工的な要素も含んでいる。
景観構成	近景	雑木林
	中景	阿武山斜面、採石場、埋立地
	遠景	背後の山、空
視認性解析		・樹木の間から、一部に埋立地や採石場等の人工的な要素がみられるが、周辺の山地等の自然的要素により緩和され、自然豊かな山地風景となっている。
備考		近景≦約 500m、約 500m<中景<約 3 km、遠景≧約 3 km

〔冬 季〕：平成 15 年 3 月 19 日



〔夏 季〕：平成 15 年 8 月 29 日



表 7-11.3 (4) 景観調査結果

視 点		No. 4 (事業計画地西側のゴルフ場)
名称・所在地		広島市安佐北区安佐町筒瀬
利用の状態		利用者属性：ゴルフ場利用者 利用形態：ゴルフ
眺望対象		ゴルフ場、阿武山
眺望方向・視野角		・ゴルフコースに沿った延長上にあたる ESE の方向に埋立地があるが、現状では樹木に遮られ埋立地を視認することはできない。 また、その背後の SE 方向には阿武山がある。
視野構成		・視野の多くはゴルフ場等の人工的要素で占められているが、阿武山斜面、空等の自然的要素も含んでいる。
景観構成	近景	ゴルフ場
	中景	阿武山
	遠景	背後の空
視認性解析		・背後の山の自然的要素もあるが、刈り込まれた芝生、植樹、整備された池等により、人工的なイメージが強い。
備考		近景≦約 500m、約 500m<中景<約 3 km、遠景≧約 3 km

〔冬 季〕：平成 15 年 2 月 26 日



〔夏 季〕：平成 15 年 8 月 29 日



表 7-11.3 (5) 景観調査結果

視 点		No. 5 (事業計画地西側のゴルフ場)
名称・所在地		広島市安佐北区安佐町筒瀬
利用の状態		利用者属性：ゴルフ場利用者 利用形態：ゴルフ
眺望対象		ゴルフ場
眺望方向・視野角		・ゴルフコースに沿った延長上にあたる SE-SSE の方向に埋立処分場があり、低木の隙間から埋立地の堰堤法面部が視認できる。 また、その背後の SE 方向には阿武山～鳥越峠～権現山がある。
視野構成		・ゴルフ場の人工的要素と阿武山～鳥越峠～権現山（スカイラインの連続性）の自然的要素がほぼ同じ比率で見られる。
景観構成	近景	ゴルフ場、松林、埋立地
	中景	阿武山～鳥越峠～権現山（スカイラインの連続性）
	遠景	背後の空
視認性解析		・刈り込まれた芝生による人工的なイメージが周囲の緑により緩和されている。冬季は SE-SSE の方向に埋立地の堰堤法面部が視認できるが、夏季は樹木により視認しにくい状態となる。
備考		近景≦約 500m、約 500m<中景<約 3 km、遠景≧約 3 km

〔冬 季〕：平成 15 年 2 月 26 日



〔夏 季〕：平成 15 年 8 月 29 日



7.11.3 予測及び評価

景観の予測手法の概要は、表 7-11.4 のとおりである。

表 7-11.4 景観の予測手法の概要

内 容		予測事項	予測地域	予測時期	予測方法
存在・供用	最終処分場の存在	景観構成要素の消滅の有無及び改変の程度	事業計画地周辺	埋立完了時	フォトモンタージュの作成による予測

① 存在・供用

ア 最終処分場の存在

(7) 予測対象（視点の選定）

視点の選定は、平成 15 年に 2 回実施した現地踏査結果（前述の表 7-11.2、表 7-11.3 (1)～(5)）を参考にするとともに、現状における埋立地の視認状況を確認するため、再度、平成 16 年 12 月に現場踏査を実施した。

調査の結果、予測対象としての視点は表 7-11.5、図 7-11.2 のとおりで、「鳥越峠付近」、「鳥越峠付近の阿武山」、「事業計画地西側のゴルフ場（2 地点）」の合計 4 地点とした。

表 7-11.5 視点の選定理由

視点	位 置	選定理由	選定結果
No. 1	阿武山 山頂付近	・埋立地方向は樹木により視界がふさがれた状態であり、埋立地を視認することはできないことから除外した。	× (対象外)
No. 2-1	鳥越峠 付近	・現状で埋立地が視認されている。さらに、改変後は埋立地の視認占有率が高くなることから視点とした。	○ (対象)
No. 2-2	鳥越峠付近 の阿武山	＜平成 16 年 12 月の追加調査＞ ・樹木の伐採により樹間が広がった場所であり、現状で埋立地が視認されるようになった。さらに、改変後は埋立地の視認占有率が高くなることから視点とした。	○ (対象)
No. 3	権現山山頂 付近	・樹間から僅かに視認できるが、その占有率は低く、埋立地を意識していないと視認できない程度であることから除外した。	× (対象外)
No. 4	事業計画地	・改変後に視認される可能性があることから視点とした。	○ (対象)
No. 5	西側の ゴルフ場	・現状で堰堤法面部が視認されている。さらに、改変後は堰堤法面部の視認占有率が高くなることから視点とした。	○ (対象)

注）視点 No. 2-2 を除く 5 地点は、平成 15 年調査時の調査地点（図 7-11.1 参照）である。

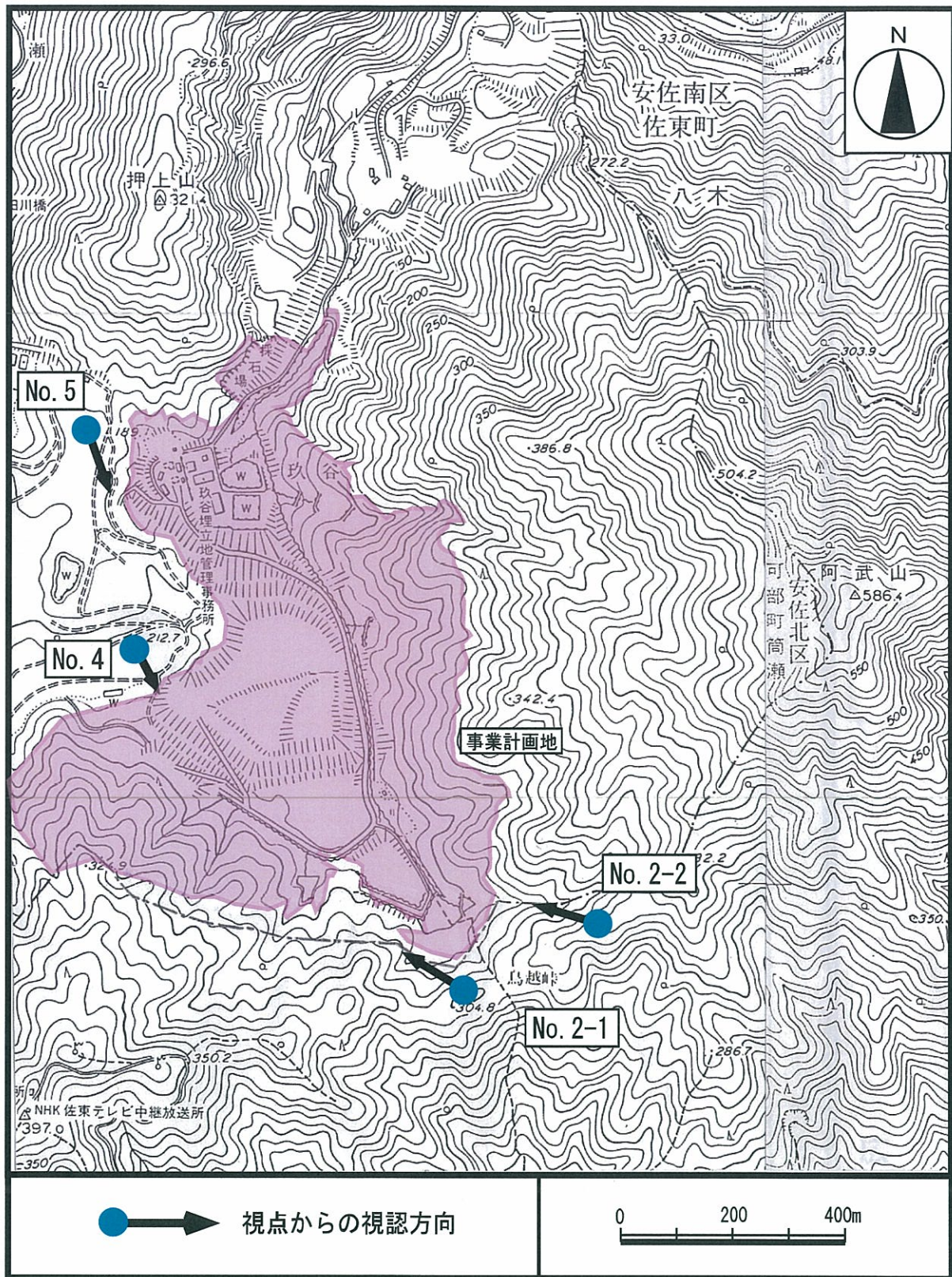


図 7-11. 2 予測対象とした視点

(4) 予測方法

現地踏査における景観写真などを参考に選定した視点毎に、フォトモンタージュ法による景観の変化を予測した。景観の予測手順は、図 7-11.3 のとおりである。

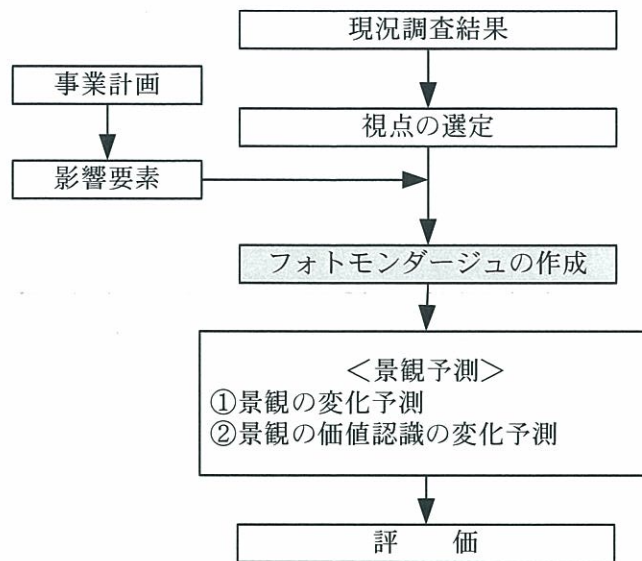


図 7-11.3 景観の予測フロー

a 景観の変化予測

景観の変化予測は、フォトモンタージュ法により予測画像を作成し、現況写真と改変後の写真を比較することにより、景観の変化状況を視覚的に整理した。

b 景観の価値認識の変化予測

景観の価値認識の変化予測は、現況写真とフォトモンタージュ法による予測画像を基に、普遍価値においては自然性を比較するため、埋立地以外の視野占有率を求めるとともに、調和性は背後の山体の高さに対する埋立地の高さの比率を求めた。また、固有価値においては郷土性としてスカイラインの連続性を比較するとともに、減少性を比較するため埋立地以外の緑視率を求めた。認識項目と指標は、表 7-11.6 のとおりである。

表 7-11.6 認識項目と指標

認識項目		指標
普遍価値	自然性	埋立地以外の視野率
	力量性	背後の山体の高さに対する埋立地の高さの比率
	調和性	背後の山で形成されるスカイラインの連続性
固有価値	減少性	埋立地以外の緑視率 (※埋立地の法面緑化部を考慮した緑視率も算出した。)

(5) 予測結果

景観の変化予測の結果は、図 7-11.4 (1)～(4) のとおりである。また、景観の価値認識の変化予測の結果は、図 7-11.5 (1)～(4) のとおりである。

【現況】

埋立地（現況）



【眺望の現況】

・視野の多くは樹木などの自然的要素で占められているが、埋立地方向の樹木は密度が低く、樹間からは埋立地を視認することが十分可能である。

【改変後】

埋立地（計画）



【変化の予測】

・拡張整備事業の実施に伴い埋立高さが高くなるため、埋立地（改変後）は樹間からよく見えるようになる。
・景観の構成要素としては、堰堤法面部と覆土部の割合が高くなるとともに、埋立高さが高くなるため埋立地（改変後）は比較的上部に視認されるようになる。

図 7-11. 4 (1) 景観の変化予測【No. 2-1：鳥越峠付近】

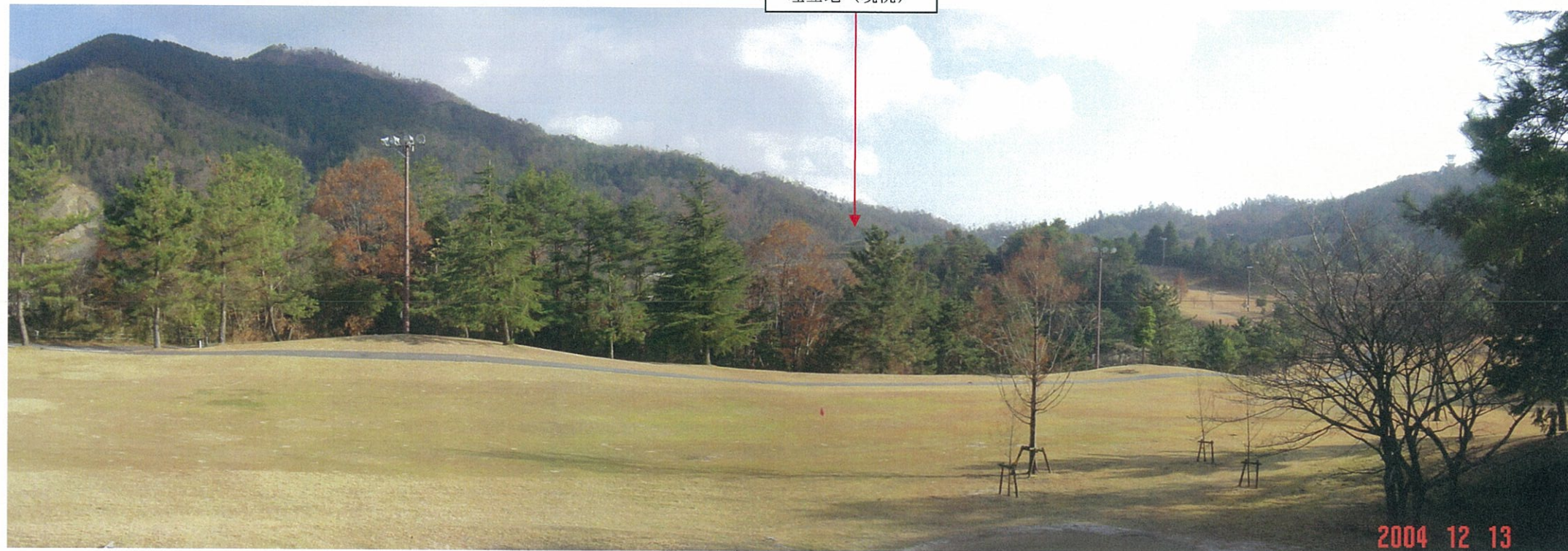
【現況】 埋立地（現況） 	【眺望の現況】 ・平成 16 年 12 月の追加調査の結果、No. 2-2（鳥越峠付近の阿武山）は樹木の伐採により、樹間が広がった場所である。 ・視野の多くは樹木などの自然的要素で占められているが、埋立地方向の樹間から埋立地、特に埋立地の覆土仮置場が視認できるようになった。
【改変後】 埋立地（計画） 	【変化の予測】 ・拡張整備事業の実施に伴い、埋立地（改変後）は樹間からよく見えるようになる。 ・景観の構成要素としては、埋立地（改変後）の埋立高さが高くなるため、覆土部の割合が高くなるとともに、覆土部は浮き上がった状態で比較的上部に視認されるようになる。

図 7-11. 4 (2) 景観の変化予測【No. 2-2：鳥越峠付近の阿武山】

【現況】 埋立地（現況） 	【眺望の現況】 ・視野の多くはゴルフ場等の人工的要素で占められているが、阿武山斜面、空等の自然的要素も含んでいる。 ・埋立地は、ゴルフコースに沿った延長上に存在するが、現状では樹木に遮られ埋立地を視認することはできない。
【改変後】 埋立地（計画） 	【変化の予測】 ・拡張整備事業の実施に伴い埋立高さが高くなるため、低木の隙間から埋立地の堰堤法面部が視認されるようになる。 ・景観の構成要素としては、堰堤法面部が樹間から僅かに見える程度であり、法面緑化により樹木と違和感なく溶け込んでいる。

図 7-11. 4 (3) 景観の変化予測【No. 4：事業計画地西側のゴルフ場】

【現況】



【眺望の現況】

- ・現状は、ゴルフ場の人工的要素と阿武山～鳥越峠～権現山（スカイラインの連続性）の自然的要素がほぼ同じ比率で見られる。
- ・埋立地は、低木の隙間から埋立地の堰堤法面部が一部視認できる程度である。

【改変後】



【変化の予測】

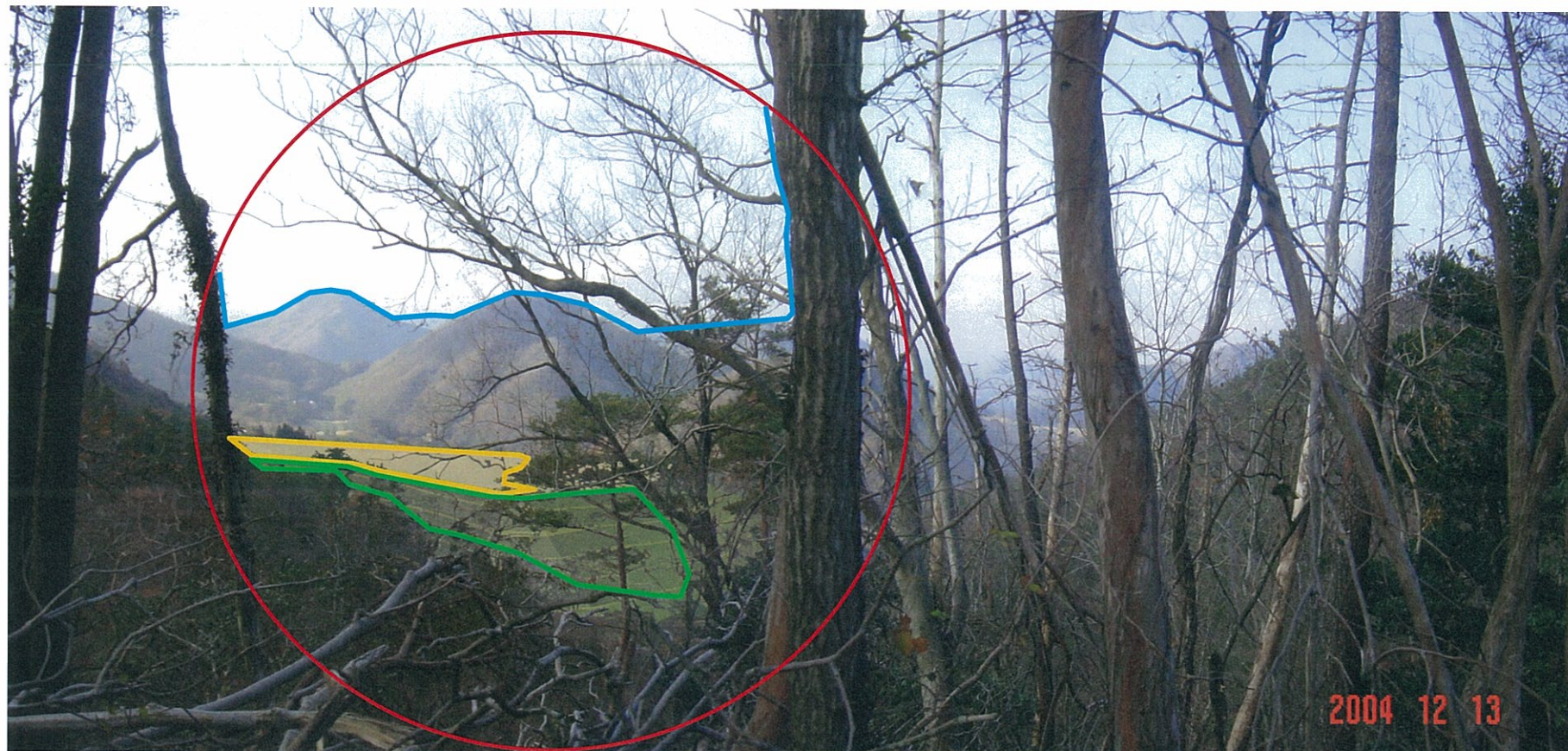
- ・拡張整備事業の実施に伴い埋立高さが高くなるため、樹木の上部に埋立地の堰堤法面部が出現するようになる。
- ・景観の構成要素としては、堰堤法面部の全延長が出現するようになるが、視点からの距離が離れていることと、法面緑化により周囲の樹木などに溶け込んでいることから、堰堤法面部のインパクトは弱まっている。

図 7-11. 4 (4) 景観の変化予測【No. 5：事業計画地西側のゴルフ場】

【現況】



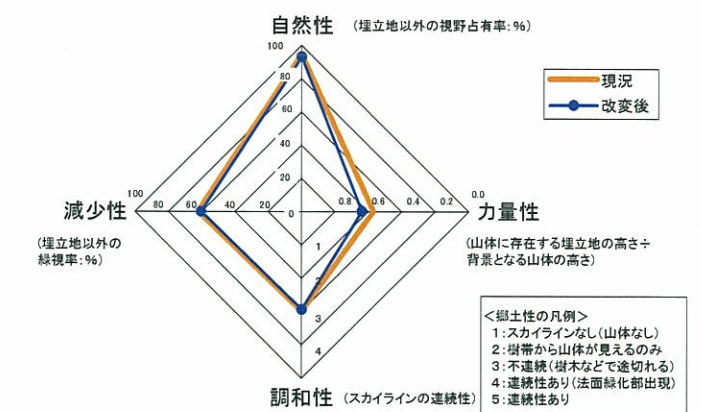
【改変後】



【価値の変化予測】

認識項目			現 況	改変後
普 遍 価 値	自 然 性	埋立地以外の 視野占有率	94.7%	93.0%
		埋立地の視野率	5.3%	7.0%
		覆土部	—	(1.7%)
		緑化部	—	(5.3%)
	力量性 (埋立地の高さ)		0.57	0.64
固 有 価 値	調和性 (スカイラインの連続性)		樹木で途 切れる。	同左 (不変)
	減少性 (埋立地以外の緑視率)		62.1%	60.4%
	埋立地の法面緑化 部を含む視野率		—	(65.7%)

注) 各視野率は、視野の範囲 (○の範囲) に対する割合を示している。



凡 例	
○	視野の範囲
□	埋立地 (改変後は覆土部)
□	埋立地の法面緑化部
—	スカイライン

図 7-11.5 (1) 景観の価値認識の変化予測【No. 2-1: 鳥越峠付近】

【現況】



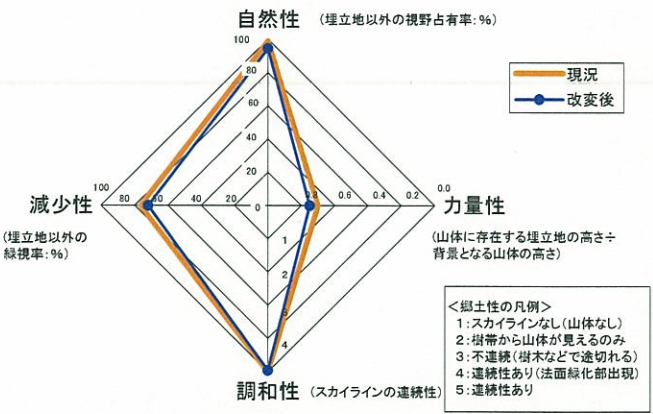
【改変後】



【価値の変化予測】

認識項目			現 況	改変後
普 遍 価 値	自 然 性	埋立地以外の 視野占有率	99.1%	94.6%
		埋立地の視野率	0.9%	5.4%
		覆土部	—	(3.3%)
		緑化部	—	(2.1%)
	力量性 (埋立地の高さ)		0.70	0.75
固 有 価 値	調和性 (スカイラインの連続性)		連続性 がある。	同左 (不変)
	減少性 (埋立地以外の緑視率)	埋立地の法面緑化 部を含む視野率	76.3%	71.8%
			—	(73.9%)

注) 各視野率は、視野の範囲 (○の範囲) に対する割合を示している。



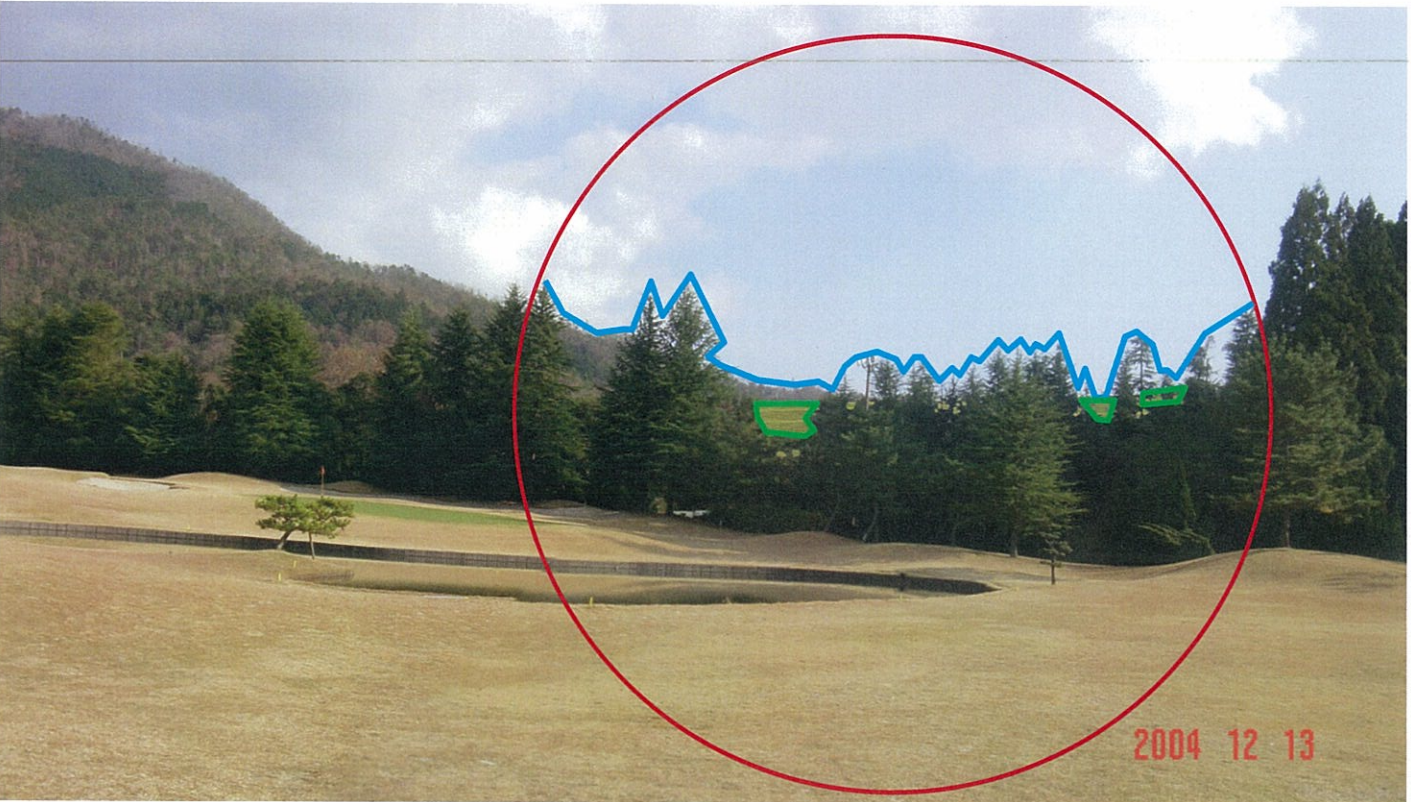
凡 例	
○	視野の範囲
□	埋立地 (改変後は覆土部)
□	埋立地の法面緑化部
—	スカイライン

図 7-11. 5 (2) 景観の価値認識の変化予測【No. 2-2：鳥越峠付近の阿武山】

【現況】



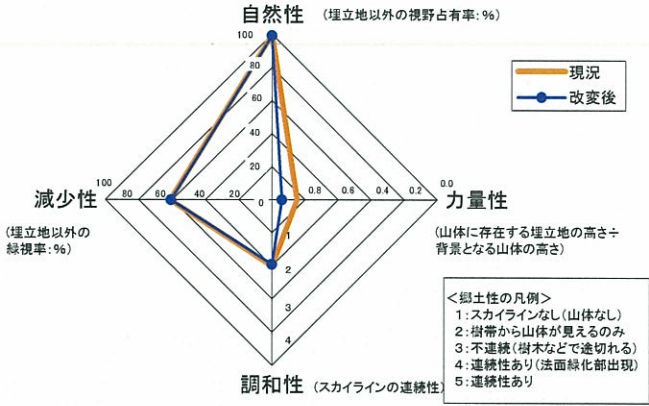
【改変後】



【価値の変化予測】

認識項目			現 況	改変後
普 遍 価 値	自 然 性	埋立地以外の 視野占有率	100.0%	99.4%
		埋立地の視野率	0.0%	0.6%
		覆土部	—	(0.0%)
		緑化部	—	(0.6%)
	力量性 (埋立地の高さ)		0.85	0.94
固 有 価 値	調和性 (スカイラインの連続性)		樹帯から山体 が見える。	同左 (不変)
	減少性 (埋立地以外の緑視率)		61.2%	60.6%
固 有 価 値	埋立地の法面緑化 部を含む視野率		—	(61.2%)

注) 各視野率は、視野の範囲（○の範囲）に対する割合を示している。



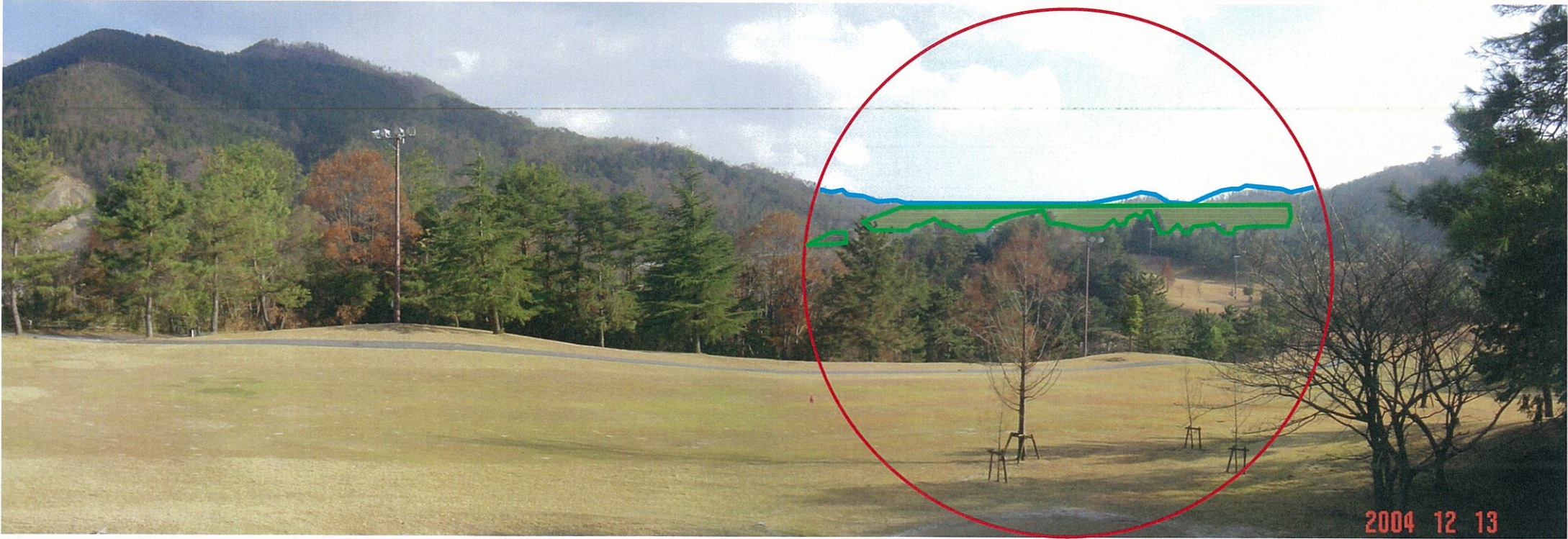
凡 例	
○	視野の範囲
□	埋立地 (改変後は覆土部)
□	埋立地の法面緑化部
—	スカイライン

図 7-11. 5 (3) 景観の価値認識の変化予測 【No. 4 : 事業計画地西側のゴルフ場】

【現況】



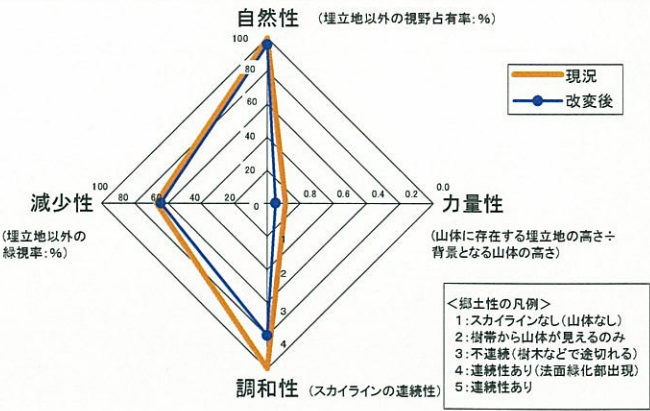
【改変後】



【価値の変化予測】

認識項目			現 況	改変後
普 遍 性	自然性	埋立地以外の 視野占有率	99.8%	96.0%
		埋立地の視野率	0.2%	4.0%
		覆土部	—	(0.0%)
		緑化部	(0.2%)	(4.0%)
価 値	力量性 (埋立地の高さ)		0.89	0.95
	調和性 (スカイラインの連続性)		連続性がある。	埋立地の法面緑化部が出現する。
固 有 価 値	減少性 (埋立地以外の緑視率)		67.1%	64.2%
	埋立地の法面緑化部を含む視野率		(67.3%)	(68.2%)

注) 各視野率は、視野の範囲（○の範囲）に対する割合を示している。



凡 例	
○	視野の範囲
□	埋立地（改変後は覆土部）
□	埋立地の法面緑化部
—	スカイライン

図 7-11. 5 (4) 景観の価値認識の変化予測【No. 5：事業計画地西側のゴルフ場】

予測結果を総括すると、それぞれ以下のとおりとなる。

No. 2-1：鳥越峠付近



(予測結果) 埋立高さが高くなるため、堰堤法面部と覆土部の視野率が高くなる（自然性 94.7%→93.0%）とともに、埋立地は比較的上部に視認されるようになる。（力量性 0.57→0.64）

そこで、堰堤法面部を緑化することで、緑視率を確保することにより、法面緑化部を考慮した緑視率は現況より高くなり（減少性 62.1%→65.7%）、視野中における埋立地のインパクトは抑えられる。

No. 2-2：鳥越峠付近の阿武山



(予測結果) 埋立高さが高くなるため、堰堤法面部と覆土部の視野率が高くなる（自然性 99.1%→94.6%）とともに、埋立地は比較的上部に視認されるようになる。（力量性 0.70→0.75）

そこで、堰堤法面部を緑化（緑化率＝2.1%）することで、視野中における埋立地のインパクトは低減される。

No. 4：事業計画地西側のゴルフ場



(予測結果) 埋立高さが高くなるため、低木の隙間から埋立地の堰堤法面部が僅かに視認されるようになる。(自然性 100%→99.4%)

また、埋立地の法面緑化部は樹帯から僅かに見える程度であり、周辺環境に違和感なく溶け込むものと考えられる。

No. 5：事業計画地西側のゴルフ場



(予測結果) 堰堤法面部の全延長が視認できるようになる。(自然性 99.8%→96.0%)

そこで、堰堤法面部を緑化することで緑視率を確保する(減少性 67.3%→68.2%) ことにより、法面緑化部を考慮した緑視率は現況より高くなり、視野中における埋立地のインパクトは弱くなる。

(I) 環境保全措置の検討

予測結果のとおり、堰堤の法面緑化を積極的に行うことで、埋立地の存在が周辺環境に与える影響を極力低減することにした。

【環境保全措置】

- 堰堤の法面部については、可能な限り埋立地周辺に現存する種の植栽を実施し、法面緑化を推進する。

(オ) 評価

環境保全措置として、堰堤の法面緑化を積極的に行うことで、埋立地の存在が周辺環境に与える影響は低減される。